

五年後の世界を 見据えて

— CFO FORUM の提言

グローバリゼーションが急伸する今日、企業で最も大事なものは「会計」だと私は考えている。企業は会計という言語によってのみ市場と対話できる。そのとき、翻訳が必要では困りものだ。株式市場もグローバル化が進んでいる。日本、米国、EUの各市場に上場している企業の会計の基準が同じ言語で語られていることが、投資家にとっても極めて重要になっている。

グローバル化する企業活動の中で、会計基準統一の必要性を痛感しているのは、CFOの方々であるはずだ。であれば、米国、欧州など各国のCFO協会とのコミュニケーションを活発にしていきたい。「いずれやりましょう」ではなく、日本も積極的に提案しながら、できるだけ早急に統一を図るべきであろう。なぜなら、発言力の大きさは市場規模にも影響されるからだ。日本の経済が沈下するに従って、日本の影響力はどんどん小さくなる。五年後には中国の発言力が経済力を背景に圧倒的に強くなっていることが予想される。現状では中国の会計レベルは発展途上だ。今のうちに欧米



明責任の三つの原則を踏まえて日々を過ごしていただきたいということだ。釈迦に説法と言われそうだが、金融緩和が10年以上続いた今、CFOは自身の役割と使命を忘れてはいないか。

私は、五年以内に金融引き締め時代がやってくると考えている。企業経営にとって資金のウエートが高くなる。CFOは市場に対する責任があり、透明度の高い経営を行い、当然のことながら説明責任を全うしなければならない。情報開示も今まで以上に求められるだろう。それには相当の自己規制が必要となるが、金融が締まったからといって、一朝一夕にできることではない。

訓練できていない人間は、厳しい局面に追い詰められると自分のポストを守るための悪知恵を出し、それが企業を悪い方向に導いていく。自己規制を忘れて問題を起こす。悲しいかな、それが人間社会が繰り返してきた歴史である。天災と同じで、今と真逆の局面は忘れた頃にやってくる。経験のないCFOの中には同じ過ちを繰り返す人もいるかもしれない。そこでは、個人の倫理観と自覚が極めて重要となる。

チーフ・オフィサーたる役割を本当に果たしているか——今とは逆の局面に立ったとき、その機能が初めて問われ、優劣があらわとなる。

経験しなければわからないことはある。未経験の穴を埋めるには、過去の金融引き締め時の実情、会社の歴史、日本経済の歴史に真摯に学ぶことだ。歴史は必ず繰り返す。CFOおよび次世代CFOの方々は、それを自覚し、遠くない「いざ」というときに備えて、転ばないように立派な杖を各々が用意してほしい。

丹羽宇一郎

前中華人民共和国駐劔特命全權大使
前伊藤忠商事取締役会長
早稲田大学特命教授

と結んで真の統一会計基準をつくっておかねば、中国が圧倒的な力をもったとき別の会計基準を主張し始めたら、非常にやっかいな問題となろう。

もう一つ、CFOの方に心していただきたいことがある。それは、CFO本来の使命と役割を自覚し、透明性の確保、情報開示、説